ZENFS

謹啓　寒さも一段と厳しくなって参りました。お変わりなくご精励のことと存します。

旧年中は大変お世話になりました。

私にとっての 2019 年は、株式投資について重要なポイントを整理できました年となりました。
特に、「期待感の変動パターン」、「その要因となる材料」を「発生時期」を中心にして組み合わせていく考え方を整理できたことは大きな収穫となりました。

2020 年は、昨年の授業内容を踏まえて、皆様により「実践的に」、より「わかりやすく」、授業内容や復習及び学習できる環境を整えていきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

末筆になりましたが、2020 年も皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

敬白

ＺＥＮファイナンシャルスクール
代表　本田 こうへい

ZENファイナンシャルスクール

テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。

〇2020 年の３大テーマの１つ「要因の整理」

2020 年のＺＥＮＦＳのテーマは３つあります。
そのうちの１つが「要因の整理」です。

「要因の整理」とは？

日本の上場企業は約 3,000 社あります。
これら 3,000 社が売買の対象となっており、値動きに差はありますが、売買されたものは価格が上下しています。

全ての企業の株価を日々見ることは、トレードを本業とする方以外にとっては、実質不可能です。

株式市場の全体像を捉えるためによく用いられるのが「日経平均株価」です。

※日経平均株価とは、日本経済新聞社が上場企業約 3,000 社の中から、業種のバランスを考えて選んだ２２５社の株価の平均のことです。

「日経平均」は、主なニュース番組で紹介されるため、聞いたことがある方は多いと思います。

また、社会人になってよく見るようになる日経新聞、ワールドビジネスサテライト、ＣＮＢＣ，ネット情報サイトなどでも、この日経平均が上がった、下がった要因を解説されています。

日経平均は、株式市場の強弱を分析するのに非常に便利なのですが、一方で、迷いを生む要因にもなります。

テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。

なぜかというと、世界経済と、各企業の業績は、総論では連動しますが、各論では全くことなるため、日経平均が上昇、下降することと投資対象となる個別株の上昇下降は時間の区切り方により異なるからです。

では、日経平均のように日々更新される情報に振り回されないようにするためには、どのような対策が効果的なのでしょうか？

まず、情報には賞味期限があり、賞味期限がニュース毎に異なることを知っておくことが大切です。

次に、メディアには、ニュースを届ける周期があり、メディアごとに取り上げるニュースに違いがあること、吸収すべき情報が異なることを知っておくことが大切になります。

これら２つのことを「時間軸」をしっかり考えて整理しておかないと、情報に振り回されてしまいます。

人間の成長を植物に例えると、情報は「栄養素」で、自分自身を成長させるためには、決まった周期で摂取することが必要ですが、植物が丈夫に成長するかどうかは、なによりも「土壌」が鍵を握ります。

人間の成長にとって「土壌」に当たるものが、環境、友好関係、経験、知識などになります。
今回はこの土壌となる「知識」を作るための「情報」について考えていきます。

情報を吸収するための「基礎知識」を高めていくことは、とても効果的です。

では、情報を得るときに意識をしておくことが大切なのでしょうか。

意識すべきは、先ほど述べた「情報の賞味期限」です。

情報の賞味期限は、未来についての情報は期限が短くなり、過去の情報の賞味期限はとても長くなるという傾向があります。
※情報発信頻度もあります。

なので、基礎知識を高めるために、歴史の勉強をすることは大変効果的です。
「歴史の勉強」が効果的なのは、「過去の経験値の集大成」であり、時間のフィルターによ

テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。

り良いものでないと残りにくいシステムだからです。
注）「歴史」は、遡る時間が長すぎると「抽象的」になりすぎて、「具体性」が薄れてしまいます。ここでは、日本史や世界史のような時間軸ではなく、あくまでの現在に重きを置いています。

企業業績を例にして、情報の賞味期限を考えると、未来の情報となる今期業績予想 3 カ月ごとに更新されます。それに対し、これまでの結果である過去の業績は、変化しませんので、賞味期限が長くなります。

そこに環境の変化を捉えるため、リーマンショック前からの日経平均の変動歴と社会情勢を考えていくことは、とても効果的です。

個別企業の業績の推移を分析すること、同時に、企業業績が変化した背景や社会情勢を押さえておくこと。

この両輪によって、引いては個別企業に投資するタイミングや投資する根拠に繋がってきます。

「要因の整理」がＺＥＮＦＳにとって、今年のテーマ。

ちなみに、2020 年は早々に「米国とイランの対立」と「個別企業の値動き」という幕開けから始まりました。

※ＺＥＮファイナンシャルスクールＨＰ
１月７日に「米国とイランの対立を歴史から振り返る」に判断する経緯について詳しく記載していますので、よろしければご覧ください。

※ＺＥＮＦＳブログ「米国とイランの対立を歴史から振り返る」ＱＲコード

現在は、何もなかったかのように落ちついていますが、このブログの翌日に「イランが報復措置」を取り日経平均は一時６００円下落しています。

テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。

リアルタイムで判断をするためには、「要因の整理」をすることは、とても重要です。
今回の一連は、情報に振り回されず、ピンチをチャンスに変えることができるということをオンタイムで伝えることができる良い例題となりました。

今後共、カリキュラムをより良いものにするために、このテーマについて、実践的な活用法まで、初心者にもわかりやすくして解説していきたいと考えております。

「株式投資を通じて視座を高める」

これからの社会で暮らしていくために、少しミライを見通す力をつけていくお手伝いをしたいと思います。

～まとめ～
〇情報には賞味期限があり、未来についてのことと、過去のことでは賞味期限が異なる。
〇「環境の変化」と「個別企業への期待」を分けて考えて整理していく。
〇情報の時間軸をうまく活用して、知識の土壌を作っていくと、効果が高い。

テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。

ZENファイナンシャルスクール

〒810-0001
福岡県福岡市中央区天神1-15-5
天神明治通りビルB1

ＴＥＬ：092-600-1386
ＦＡＸ：092-600-1387
Ｍａｉｌ：info@zenfs.club

ZENファイナンシャルスクール
テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。